

SQL*Plus for Windows

スタート・ガイド

リリース 9.2

2002 年 7 月

部品番号 : J06329-01

ORACLE®

SQL*Plus for Windows スタート・ガイド, リリース 9.2

部品番号: J06329-01

原本名: SQL*Plus Getting Started, Release 9.2 for Windows

原本部品番号: A92157-01

原著者: Simon Watt

原本協力者: Alison Holloway, Christopher Jones, Andrei Souleimanian

Copyright © 1996, 2002, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されております。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、**Oracle Corporation**（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である **Oracle Corporation**（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『**Restricted Rights**』と共に提供してください。この場合次の **Notice** が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

はじめに	iii
対象読者	iv
このマニュアルの構成	iv
関連資料	v
表記規則	vi
 1 SQL*Plus の概要	
概要	1-2
基本概念	1-3
オンライン・ヘルプの参照	1-3
 2 SQL*Plus のヘルプとデモ表のインストール	
SQL*Plus のインストール	2-2
SQL*Plus コマンドライン・ヘルプのインストール	2-2
サンプル表へのアクセス	2-4
 3 SQL*Plus の使用方法	
コマンドライン・インタフェースの使用方法	3-2
GUI の使用方法	3-4
SQL*Plus の終了	3-14
iSQL*Plus Extension for Windows	3-14

4 オペレーティング・システム固有のリファレンス

自動ログオン	4-2
TIMING コマンド	4-2
エラー・メッセージの解釈	4-2
SQL*Plus 環境の設定	4-3
ファイルへの結果の格納	4-3
@、@@ および START コマンド	4-3
HOST コマンド	4-4
SET NEWPAGE コマンド	4-4
PRODUCT_USER_PROFILE 表	4-4

A オペレーティング・システム・パラメータのカスタマイズ

レジストリの使用方法	A-2
SQLPATH レジストリ・エントリ	A-2
iSQL*Plus Extension for Windows のレジストリ・エントリ	A-3
SQLPLUS 環境変数	A-3

索引

はじめに

『SQL*Plus for Windows スタート・ガイド』では、Windows XP Professional、Windows 2000、Windows NT 4.0 および Windows 98 オペレーティング・システムに固有の SQL*Plus 製品について説明します。このマニュアルでは、SQL*Plus for Windows 製品を SQL*Plus と呼びます。

次の項目について説明します。

- [対象読者](#)
- [このマニュアルの構成](#)
- [関連資料](#)
- [表記規則](#)

対象読者

『SQL*Plus for Windows スタート・ガイド』は、Windows XP Professional、Windows 2000、Windows NT 4.0 または Windows 98 のオペレーティング・システム環境で SQL*Plus を使用するビジネス・ユーザー、テクニカル・ユーザーおよびシステム管理者を対象としています。

このマニュアルは、読者が次のことを十分に理解していることを前提にしています。

- SQL*Plus のコマンドと一般的な機能。このマニュアルを使用する前に、SQL*Plus の共通マニュアルを参照してください。この章の「[関連資料](#)」を参照してください。
- ファイルの削除やコピーなどのコマンド、検索パス、サブディレクトリおよびパス名の概念。
- Windows XP Professional、Windows 2000、Windows NT 4.0 および Windows 98 オペレーティング・システムの基礎。

このマニュアルを使用するには、Structured Query Language (SQL) データベース言語の基礎知識が必要です。このデータベース・ツールの知識がない場合は、『Oracle9i SQL リファレンス』を参照してください。SQL*Plus を PL/SQL データベース言語とともに使用する場合、PL/SQL の使用方法については、『PL/SQL ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

このマニュアルの構成

このマニュアルは、次のように構成されています。

第 1 章「SQL*Plus の概要」

SQL*Plus for Windows を使用し始めるときに役立つ、初歩的な情報を提供します。

第 2 章「SQL*Plus のヘルプとデモ表のインストール」

SQL*Plus のヘルプおよびデモ表のインストール方法とアクセス方法について説明します。

第 3 章「SQL*Plus の使用方法」

使用可能なユーザー・インタフェースの種類を示し、コマンドライン・インタフェースと Graphical User Interface (GUI) のそれぞれから SQL*Plus を起動して使用方法、および GUI のメニュー・オプションについて説明します。

第 4 章「オペレーティング・システム固有のリファレンス」

Windows XP/2000/NT/98 環境に固有のコマンド情報を提供します。これらの情報は、『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』と相互に参照されます。

付録 A 「オペレーティング・システム・パラメータのカスタマイズ」

Windows のレジストリ・エントリの変更および環境変数 SQLPLUS の設定によって、SQL*Plus 構成をカスタマイズする方法を説明します。

関連資料

『SQL*Plus for Windows スタート・ガイド』では、Windows ベースのプラットフォームにおける SQL*Plus に固有の情報を説明します。SQL*Plus のクロスプラットフォーム・サポート、機能およびコマンドの詳細と、SQL*Plus の新しい Web ブラウザベースのユーザー・インタフェースである iSQL*Plus の詳細は、SQL*Plus 共通マニュアルを参照してください。

Oracle Enterprise Edition for Windows 製品のドキュメント・セットに加えて、次の SQL*Plus マニュアルを参照できます。

- 『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』
- 『SQL*Plus クイック・リファレンス』

注意： SQL*Plus をインストールする前に、CD-ROM にある SQL*Plus の共通マニュアル、および最新情報が入ったリリース・ノートを参照してください。

このマニュアルの例では、Oracle9i のインストール時にデフォルトでインストールされる HR サンプル・スキーマを使用します。このスキーマがどのように作成されたか、およびそれらの使用方法については、『Oracle9i サンプル・スキーマ』を参照してください。

リリース・ノート、インストール・ドキュメント、ホワイト・ペーパー、またはその他の関連資料を無償でダウンロードするには、OTN-J (Oracle Technology Network Japan) にアクセスしてください。OTN-J を利用する前に、オンライン登録が必要です。次の URL で登録できます。

<http://otn.oracle.co.jp/membership/>

OTN-J のユーザー名およびパスワードをすでにお持ちの場合は、次の OTN-J の Web サイトのドキュメント・セクションに直接アクセスできます。

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

表記規則

ここでは、このマニュアルの本文およびサンプル・コードで使用される表記規則について説明します。表記規則は次の 3 種類です。

- 本文の表記規則
- サンプル・コードの表記規則
- Windows オペレーティング・システムの表記規則

本文の表記規則

本文中では、特定の用語をより簡単に識別できるように、様々な表記規則を使用しています。次の表は、本文中で使用される表記規則とその使用例を説明したものです。

規則	意味	例
太字	太字は、本文中で定義されている用語、または用語集で説明されている用語、あるいはその両方を示します。	この句を指定する場合、 索引構成表 を作成します。
大文字（固定幅フォント）	大文字固定幅フォントは、システムによって指定される要素を示します。これらの要素には、パラメータ、権限、データ型、Recovery Manager のキーワード、SQL のキーワード、SQL*Plus またはユーティリティのコマンド、パッケージ、メソッドの他に、システムで表示される列名、データベースのオブジェクトおよび構造、ユーザー名およびロールがあります。	この句は NUMBER 列に対してのみ指定できます。 BACKUP コマンドを使用して、データベースをバックアップできます。 USER_TABLES データ・ディクショナリ・ビューの TABLE_NAME 列を問い合わせます。 DBMS_STATS.GENERATE_STATS プロシージャを使用します。
小文字（固定幅フォント）	小文字固定幅フォントは、実行可能ファイル、ファイル名、ディレクトリ名、およびサンプルのユーザー指定要素を示します。これらの要素には、コンピュータ名およびデータベース名、ネット・サービス名、および接続識別子の他に、ユーザー指定のデータベースのオブジェクトおよび構造、列名、パッケージおよびクラス、ユーザー名およびロール、プログラム・ユニット、およびパラメータ値があります。 注意： 一部のプログラム要素には、大文字と小文字の両方が使用されます。これらの要素は、記載されているとおりに入力してください。	sqlplus を入力して、SQL*Plus を開きます。 パスワードは、orapwd ファイルで指定されます。 ¥disk1¥oracle¥dbs ディレクトリのデータ・ファイルと制御ファイルをバックアップします。 department_id、department_name および location_id 列は、hr.departments 表にあります。 QUERY_REWRITE_ENABLED 初期化パラメータを true に設定します。 oe ユーザーとして接続します。 JRepUtil クラスは、これらのメソッドを実装します。

規則	意味	例
小文字 (固定幅 フォント) イタリック	小文字固定幅イタリック・フォントは、プ レースホルダまたは変数を表します。	<i>managed_clause</i> を指定できます。 <i>Uold_release</i> .SQL を実行します。 <i>old_release</i> は、アップグレード前にインス トールしたリリースを表します。

サンプル・コードの表記規則

サンプル・コードは、SQL、PL/SQL、SQL*Plus またはその他のコマンドライン文を示しま
す。これらは固定幅フォントで示され、次の例のように、通常の本文とは区別されていま
す。

```
SELECT username FROM dba_users WHERE username = 'MIGRATE';
```

次の表は、サンプル・コードで使用する表記規則とそれらの使用例を説明したものです。

規則	意味	例
[]	大カッコは、1 つ以上のオプション項目を囲 みます。大カッコは入力しないでください。	DECIMAL (<i>digits</i> [, <i>precision</i>])
{ }	中カッコは複数の項目を囲み、そのうちの 1 つが必要であることを示します。中カッコ は入力しないでください。	{ENABLE DISABLE}
	縦線は、大カッコまたは中カッコ内にある 複数のオプションの選択肢を区切るために 使用します。オプションの 1 つを入力しま す。縦線は入力しないでください。	{ENABLE DISABLE} [COMPRESS NOCOMPRESS]
...	水平の省略記号は、次のいずれかを示しま す。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 例に直接関係のないコードの一部を省 略 ■ コードの一部の繰り返しが可能 	CREATE TABLE ...AS <i>subquery</i> ; SELECT <i>col1</i> , <i>col2</i> , ..., <i>coln</i> FROM employees;
.	垂直の省略記号は、例に直接関係のない コードの数行を省略したことを示します。	SQL> SELECT NAME FROM V\$DATAFILE; NAME ----- /fs1/dbs/tbs_01.dbf /fs1/dbs/tbs_02.dbf . . . /fs1/dbs/tbs_09.dbf 9 rows selected.

規則	意味	例
その他の表記規則	大カッコ、中カッコ、縦線および省略記号以外の記号は、示されているとおりに入力してください。	acctbal NUMBER(11,2); acct CONSTANT NUMBER(4) := 3;
イタリック	イタリックの文字は、特定の値を指定する必要があるプレースホルダまたは変数を示します。	CONNECT SYSTEM/system_password DB_NAME = database_name
大文字	大文字は、システムによって指定される要素を示します。ユーザーが定義する語句と区別するために、大文字で示しています。語句が大カッコ内に表示されている場合を除き、記載されているとおりの順序とスペルで入力します。ただし、これらの語句には大文字と小文字の区別がないため、小文字で入力できます。	SELECT last_name, employee_id FROM employees; SELECT * FROM USER_TABLES; DROP TABLE hr.employees;
小文字	小文字は、ユーザーが指定するプログラム要素を示します。たとえば、小文字は表、列またはファイルの名前を示します。 注意： 一部のプログラム要素には、大文字と小文字の両方が使用されます。これらの要素は、記載されているとおりに入力してください。	SELECT last_name, employee_id FROM employees; sqlplus hr/hr CREATE USER mjjones IDENTIFIED BY ty3MU9;

Windows オペレーティング・システムの表記規則

次の表は、Windows オペレーティング・システムの表記規則とその使用例を説明したものです。

規則	意味	例
「スタート」→を選択	プログラムの起動方法。	たとえば、Database Configuration Assistant を起動するには、タスクバーの「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」→「Oracle - HOME_NAME」→「Configuration and Migration Tools」→「Database Configuration Assistant」を選択します。
ファイル名およびディレクトリ名	ファイルおよびディレクトリ名には、大文字と小文字の区別がありません。左山カッコ (<)、右山カッコ (>)、コロン (:)、二重引用符 (")、スラッシュ (/)、縦線 () およびダッシュ (-) の特殊文字は使用できません。特殊文字 ¥ は、引用符に囲まれている場合でも、要素の区切り文字として扱われます。ファイル名が ¥¥ で始まる場合、Windows では汎用命名規則を使用しているものと認識されます。	c:¥winnt"¥"system32 は、C:¥WINNT¥SYSTEM32 と同じです。
C:¥>	現行のハード・ディスク・ドライブの Windows コマンド・プロンプトを示します。プロンプトは、現在作業中のサブディレクトリを示しています。このマニュアルでは、コマンド・プロンプトと呼びます。	C:¥oracle¥oradata>
特殊文字	特殊文字の円記号 (¥) は、Windows コマンド・プロンプトで特殊文字の二重引用符 (") のエスケープ文字として必要な場合があります。カッコおよび特殊文字の一重引用符 (') は、エスケープ文字を必要としません。エスケープ文字および特殊文字の詳細は、Windows オペレーティング・システムのドキュメントを参照してください。	C:¥>exp scott/tiger TABLES=emp QUERY=¥"WHERE job='SALESMAN' and sal<1600¥" C:¥>imp SYSTEM/password FROMUSER=scott TABLES=(emp, dept)
HOME_NAME	Oracle ホーム名を示します。 ホーム名は、英数字 16 文字までです。ホーム名で利用できる特殊文字は、アンダースコアのみです。	C:¥> net start OracleHOME_NAME_TNSListener

規則	意味	例
ORACLE_HOME および ORACLE_BASE	<p>Oracle8 リリース 8.0 以下のリリースでは、Oracle コンポーネントをインストールすると、サブディレクトリはすべて、ORACLE_HOME ディレクトリ（デフォルトでは次のとおり）の下に置かれました。</p> <ul style="list-style-type: none">■ Windows NT の場合は C:¥orant■ Windows 98 の場合は C:¥orawin98 <p>あるいは、Oracle ホームと呼ばれるディレクトリの下に置かれました。</p> <p>今回のリリースは、Optimal Flexible Architecture (OFA) に準拠しています。すべてのサブディレクトリが最上位の ORACLE_HOME ディレクトリの下にあるわけではありません。ORACLE_BASE という最上位ディレクトリがあり、デフォルトは C:¥oracle です。コンピュータに最新の Oracle リリースをインストールし、他の Oracle ソフトウェアをインストールしない場合、最初の Oracle ホーム・ディレクトリのデフォルト設定は、C:¥oracle¥oramm です。mm は、最新のリリース番号です。Oracle ホーム・ディレクトリは、ORACLE_BASE の直下に置かれます。</p> <p>このマニュアルでは、ディレクトリ・パスの例は、すべて OFA 表記規則に準拠しています。</p>	<p>%ORACLE_HOME%¥rdbms¥admin ディレクトリに移動します。</p>

SQL*Plus の概要

この章では、SQL*Plus を使用し始めるときに役立つ、初歩的な情報を提供します。
この章の項目は次のとおりです。

- [概要](#)
- [基本概念](#)
- [オンライン・ヘルプの参照](#)

概要

SQL*Plus は、SQL およびその拡張された手続き型言語である PL/SQL とともに使用できます。これらのデータベース言語を使用することにより、Oracle データベースに対しデータを格納および検索できます。PL/SQL を使用すると、手続き型ロジックを介していくつかの SQL コマンドを連結できます。

SQL*Plus を使用することで、SQL コマンドおよび PL/SQL ブロックを操作でき、またその他の多くのタスクを実行できます。SQL*Plus では、次の操作を行うことができます。

- SQL コマンドと PL/SQL ブロックの入力、編集、保存、取出しおよび実行
- 問合せ結果の書式設定、計算、保存および表示
- 任意の表の列定義のリスト
- エンド・ユーザーへのメッセージの送信とその応答の受信
- データベースの管理

Windows の SQL*Plus では、次の 3 つのユーザー・インタフェースと拡張ユーザー・インタフェースが使用可能です。

- コマンドライン・ユーザー・インタフェース

Windows に固有のコマンドライン操作の詳細は、[第 3 章「SQL*Plus の使用方法」](#)を参照してください。

- iSQL*Plus ユーザー・インタフェース

iSQL*Plus ユーザー・インタフェースの詳細は、『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

- iSQL*Plus Extension for Windows (Windows のみ)

iSQL*Plus Extension for Windows の詳細は、[第 3 章「SQL*Plus の使用方法」](#)を参照してください。

- GUI (Windows のみ)

SQL*Plus for Windows GUI は、SQL*Plus の将来のリリースではサポートされなくなります。SQL*Plus for Windows GUI は、ブラウザベースの iSQL*Plus ユーザー・インタフェースにかわる予定です。SQL*Plus for Windows コマンドライン (DOS) インタフェースは引き続きサポートされます。Windows GUI の詳細は、[第 3 章「SQL*Plus の使用方法」](#)を参照してください。

基本概念

次の定義は、SQL*Plus の基本的な概念を説明します。

概念	定義
コマンド	特定のタスクを実行するために、オペレーティング・システムまたは SQL*Plus や Oracle などのソフトウェアに与える命令
SQL コマンド	SQL 文を実行するコマンド
SQL*Plus コマンド	SQL*Plus 文を実行するコマンド
ブロック	PL/SQL で、手続き型ロジックを介して互いに関係付けられる SQL コマンドと PL/SQL コマンドのグループ
表	Oracle 内の基本格納単位
問合せ	1 つ以上の表から情報を取得する読取り専用の SQL SELECT コマンド
問合せ結果	問合せによって取得されるデータ
レポート	SQL*Plus コマンドによって書式設定された問合せ結果
SQL バッファ	SQL*Plus に入力した最新の SQL コマンドまたは PL/SQL ブロックを格納するバッファ
画面バッファ	SQL*Plus アプリケーション・ウィンドウ内のデータを格納するバッファ

SQL*Plus に関連するその他の概念の定義は、『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の「用語集」を参照してください。

オンライン・ヘルプの参照

SQL*Plus のオンライン・ヘルプは、データベースに接続中の SQL*Plus コマンドラインから利用できます。ただし、管理者が SQL*Plus ヘルプ表を作成してデータを挿入しておく必要があります。SQL*Plus オンライン・ヘルプのインストールの詳細は、2-2 ページの「[SQL*Plus コマンドライン・ヘルプのインストール](#)」を参照してください。

iSQL*Plus オンライン・ヘルプおよび SQL*Plus コマンドライン・ヘルプは、iSQL*Plus ユーザー・インタフェースから使用可能です。『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

SQL*Plus のヘルプとデモ表のインストール

この章では、Windows 環境で SQL*Plus のコンポーネントをインストールするときに役立つ情報を提供します。

この章の項目は次のとおりです。

- [SQL*Plus のインストール](#)
- [SQL*Plus コマンドライン・ヘルプのインストール](#)
- [サンプル表へのアクセス](#)

SQL*Plus のインストール

製品の CD-ROM 版とともに提供されるドキュメントには、SQL*Plus に関する次の情報が記載されています。

- システム要件
- インストール手順

注意： SQL*Plus をインストールする前に、CD-ROM にある SQL*Plus の共通マニュアル、および最新情報が入ったリリース・ノートを参照してください。

SQL*Plus コマンドライン・ヘルプのインストール

コマンドライン・ヘルプは、SQL*Plus の使用時、GUI、コマンドライン・ユーザー・インタフェースおよび iSQL*Plus ユーザー・インタフェースから使用可能です。データベース管理者が SQL*Plus ヘルプ表を作成し、SQL*Plus ヘルプ・データを挿入します。

また、iSQL*Plus ユーザー・インタフェースからのみ使用可能な iSQL*Plus オンライン・ヘルプもあります。『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

前提条件

SQL*Plus コマンドライン・ヘルプをインストールする前に、次のことを確認します。

- SQL*Plus がインストールされていること。インストールされていない場合は、ヘルプ表の作成およびロードはできません。
- SYSTEM ユーザーのデフォルト表領域が、ヘルプ・システムを格納できる大きさであること。
- SQL*Plus ヘルプのスクリプト・ファイルは、次の場所にあります。

`%ORACLE_HOME%\SQLPLUS\ADMIN\HELP*`

ヘルプのスクリプト・ファイルは、次のとおりです。

- HELPBLD.SQL: 新規ヘルプ表の削除および作成
- HELPUS.SQL: ヘルプ表へのヘルプ・データの挿入
- HELPDROP.SQL: 既存の SQL*Plus ヘルプ表の削除
- Windows のコマンド・ファイル HELPINS.BAT は、次の場所にあります。

`%ORACLE_HOME%\BIN*`

SQL*Plus コマンドライン・ヘルプのインストール

SQL*Plus コマンドライン・ヘルプは、Oracle9i のインストール時に自動的にインストールされます。次の 2 つの方法で、SQL*Plus コマンドライン・ヘルプを手動でインストールすることもできます。

コマンド・プロンプトから付属のバッチ・ファイルを実行

1. SYSTEM ユーザーのログオン情報を保持するための環境変数 SYSTEM_PASS を設定します。

```
SET SYSTEM_PASS=SYSTEM/PASSWORD
```

PASSWORD は SYSTEM ユーザー用に定義したパスワードです。SYSTEM ユーザーのデフォルトのパスワードは MANAGER です。

HELPINS ユーティリティによってこのログオン情報が SYSTEM_PASS から読み込まれ、正常に実行されます。

2. コマンドライン・プロンプトからバッチ・ファイル HELPINS.BAT を実行します。

```
C:\> %ORACLE_HOME%\BIN\HELPINS US
```

SQL*Plus から付属の SQL スクリプトを実行

1. SQL*Plus を、SYSTEM ユーザーとして実行します。

```
C:\> SQLPLUS SYSTEM/PASSWORD
```

PASSWORD は SYSTEM ユーザー用に定義したパスワードです。

2. SQL スクリプト HELPBLD.SQL を SQL*Plus から実行します。

```
SQL> @%ORACLE_HOME%\SQLPLUS\ADMIN\HELP\HELPBLD.SQL HELPPATH HELPUS.SQL
```

HELPPATH は、ファイル HELPUS.SQL を含む SQL*Plus ヘルプ・ディレクトリへのパスです。HELPPATH は、通常、次のとおりです。

```
%ORACLE_HOME%\SQLPLUS\ADMIN\HELP
```

SQL*Plus ヘルプへのアクセス

SQL*Plus コマンドライン・ヘルプにアクセスするには、SQL*Plus に次のコマンドを入力します。

```
SQL> HELP
```

必要なヘルプのトピックがわかっている場合は、次のコマンドを入力します。

```
SQL> HELP topic
```

topic は SQL*Plus ヘルプのトピックです。

参照可能なヘルプ・トピックのリストを表示するには、次のコマンドの 1 つを入力します。

```
SQL> HELP INDEX
```

または

```
SQL> HELP TOPICS
```

例

COLUMN コマンドのヘルプを参照するには、次のように入力します。

```
SQL> HELP COLUMN
```

ヘルプを利用できないというメッセージが表示された場合は、SQL*Plus コマンドライン・ヘルプが SYSTEM スキーマに正しくインストールされているかどうかを確認します。

HELP コマンドの詳細は、『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の「HELP」を参照してください。

サンプル表へのアクセス

Oracle9i には、多数のサンプル・スキーマが含まれています。SQL*Plus の例では、Human Resources (HR) サンプル・スキーマの EMP_DETAILS_VIEW ビューを使用します。このスキーマには、架空の会社の人事記録が含まれています。HR サンプル・スキーマのロック解除およびアクセスの詳細は、『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の第 1 章を参照してください。Oracle9i に含まれているサンプル・スキーマの詳細は、『Oracle9i サンプル・スキーマ』を参照してください。

注意： サンプル・スキーマの日付では、4 桁の年を使用しています。SQL*Plus のデフォルトの日付書式は DD-MM-YY であるため、表示される日付では年は 2 桁のみになります。日付の表示方法を制御するには、ALTER SESSION SET NLS_DATE_FORMAT = 'DD-MM-YYYY' を使用するか、または SELECT 文で SQL TO_CHAR ファンクションを使用します。

SQL*Plus の使用方法

この章では、コマンドライン・インタフェースと GUI のそれぞれから SQL*Plus を起動して使用する方法、および GUI のメニュー・オプションについて説明します。また、iSQL*Plus Extension for Windows の使用方法および構成方法についても説明します。

この章の項目は次のとおりです。

- [コマンドライン・インタフェースの使用方法](#)
- [GUI の使用方法](#)
- [SQL*Plus の終了](#)
- [iSQL*Plus Extension for Windows](#)

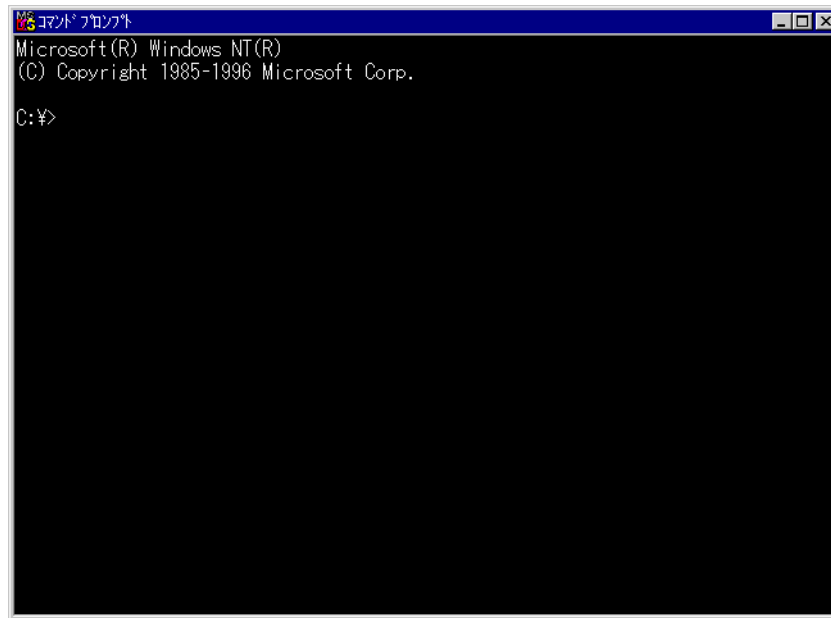
コマンドライン・インタフェースの使用法

SQL*Plus コマンドライン・インタフェースは、すべてのオペレーティング・システムに提供される標準機能です。

リモートの Oracle データベースに接続する場合は、Oracle9i Net Services がインストールされ、正常に動作していることを確認します。詳細は、『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』および『Oracle9i Database for Windows 管理者ガイド』を参照してください。

コマンドライン・インタフェースから SQL*Plus を起動するには、次のようにします。

1. 「スタート」メニューの「プログラム」（Windows XP/2000 では「プログラム」→「アクセサリ」）から「MS-DOS プロンプト」または「コマンド プロンプト」を選択します。「MS-DOS プロンプト」ウィンドウまたは「コマンド プロンプト」ウィンドウが表示されます。



2. 次のように入力して SQL*Plus を起動します。

```
C:\> SQLPLUS
```

オプションとして、スラッシュ (/) で区切ったログオン・ユーザー名とパスワード、および接続するリモート・データベース名を指定できます。次に例を示します。

```
C:\> SQLPLUS username/password@connect_identifier
```

指定しない場合は、ユーザー名とパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

Windows における引数の解釈

Windows のコマンドでの引数解釈の規則は次のとおりです。

- 引数は空白で区切られます。
- 二重引用符で囲まれた文字列（たとえば "this string"）は、1 つの引数として解釈されます。
- 円記号（¥）が前に付いている二重引用符は、リテラルの二重引用符として解釈されます。

コマンドラインのフォントおよびフォント・サイズの変更

Windows の「" コマンドプロンプト " のプロパティ」ダイアログ・ボックスを使用して、SQL*Plus コマンドライン・インタフェースで使用されるフォントおよびフォント・サイズを設定できます。

コマンドライン・インタフェースのフォントおよびフォント・サイズを変更するには、次のようにします。

1. コマンドライン・インタフェースのタイトル・バーを右クリックします。
2. 「プロパティ」をクリックします。「フォント」タブの「ウィンドウのプレビュー」ボックスに、フォントおよびフォント・サイズの選択に基づいて、モニター上での現在のウィンドウの相対サイズが表示されます。「選択したフォント」ボックスに、現在のフォントのサンプルが表示されます。
3. 「サイズ」ボックスで、使用するフォント・サイズを選択します。ラスター・フォント・サイズは、ピクセル単位の幅×高さで示されます。TrueType フォント・サイズは、ピクセル単位の幅で示されます。
4. 「フォント」ボックスで、使用するフォントを選択します。
5. ボールドのフォントを使用する場合は、「ボールドフォント」チェックボックスを選択します。

Windows コマンド・プロンプトのプロパティの変更の詳細は、Windows のヘルプを参照するか、「" コマンドプロンプト " のプロパティ」ダイアログ・ボックスで「ヘルプ」ボタンをクリックします。

特殊文字の使用法

フォントにユーロ記号などの特定の文字が含まれているかどうかを確認するには、その文字を表す 10 進数を SQL*Plus コマンドライン・インタフェースに入力します。たとえば、ユーロ記号を表す 10 進数は 128 なので、この記号を表示するには **[Alt]** キーを押しながら「**0128**」と入力します。正しく表示された場合は、選択したフォントにユーロ記号が含まれていることになります。表示されない場合は別のフォントを使用する必要があります。

Windows の「文字コード表」ユーティリティを使用して、フォントで使用可能な文字を表示できます。文字コード表では、拡張 ASCII 文字を表す 10 進数も表示されます。「文字コード表」ユーティリティにアクセスするには、「**スタート**」→「**プログラム**」→「**アクセサリ**」を選択（Windows 98/2000 の場合は、さらに「**システム ツール**」を選択）し、「**文字コード表**」をクリックします。

GUI の使用方法

コマンドライン・インタフェースがすべてのオペレーティング・システム・プラットフォームで SQL*Plus の標準の機能であるのに対し、GUI は Windows でのみ使用可能な SQL*Plus の機能です。Windows GUI は、SQL*Plus の将来のリリースでは使用されなくなり、ブラウザベースの iSQL*Plus ユーザー・インタフェースにかわる予定です。

リモートの Oracle データベースに接続する場合は、Oracle9i Net Services がインストールされ、正常に動作していることを確認します。詳細は、『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』および『Oracle9i Database for Windows 管理者ガイド』を参照してください。

GUI は、Windows のメニュー、または Windows のコマンド・プロンプトから起動できます。

Windows メニューからの GUI の起動

1. 「スタート」メニューから、「プログラム」を選択します。次に、「Oracle - ORACLE_HOME」→「Application Development」→「SQL Plus」を選択します。

「SQL*Plus」ウィンドウが表示され、「ログオン」ダイアログ・ボックスが表示されます。

有効なユーザー名とパスワードを入力します。リモートの Oracle データベースに接続する場合は、「ホスト文字列」フィールドに Oracle Net 接続識別子を入力します。デフォルトのデータベースに接続するには、「ホスト文字列」フィールドを空白のままにしておきます。Oracle Net 接続識別子の構成および使用方法の詳細は、『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』を参照してください。

2. 「OK」をクリックします。

Windows コマンド・プロンプトからの GUI の起動

1. 「スタート」メニューの「プログラム」(Windows XP/2000 では「プログラム」→「アクセサリ」) から「MS-DOS プロンプト」または「コマンド プロンプト」を選択します。「MS-DOS プロンプト」ウィンドウまたは「コマンド プロンプト」ウィンドウが表示されます。

2. 次のように入力します。

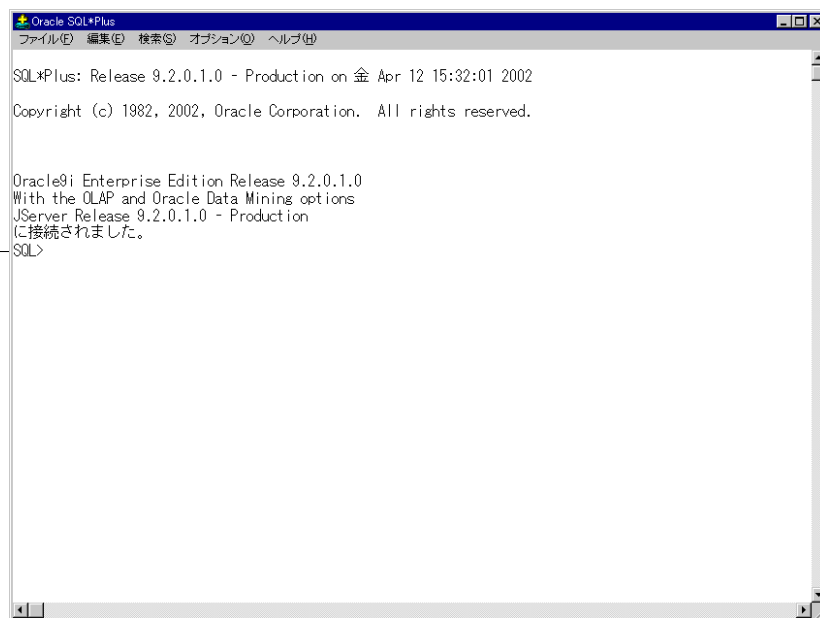
```
C:\> SQLPLUSW
```

SQL*Plus の GUI が起動します。Windows GUI では、-LOGON オプションはサポートされていません。オプションとして、スラッシュ (/) で区切ったログオン・ユーザー名とパスワード、および接続するリモート・データベースを指定できます。次に例を示します。

```
C:\> SQLPLUSW username/password@connect_identifier
```

指定しない場合は、前述のように「ログオン」ダイアログ・ボックスに必要な情報を入力します。Oracle SQL*Plus アプリケーション・ウィンドウが表示されます。

**SQL*Plus
コマンド・
プロンプト**



SQL*Plus アプリケーション・ウィンドウの使用方法

SQL*Plus では、アプリケーション・ウィンドウに SQL コマンド・プロンプトが表示されます。

SQL コマンドおよび SQL*Plus コマンドを入力するには、SQL*Plus コマンド・プロンプトにコマンドを入力し、[Enter] キーを押します。

マウス・ボタンを使用してテキストをコマンド・プロンプトにコピーする方法

マウスのボタンを使用して、SQL*Plus インタフェースの任意の場所から同じインタフェース内の SQL*Plus プロンプトへテキストをコピーできます。

テキストをコピーするには、マウスの左ボタンをクリックしてテキストを選択し、ドラッグします。マウスの左ボタンを押したまま、右ボタンをクリックします。選択したテキストが SQL*Plus プロンプトにコピーされます。

コマンド・キーの使用方法

SQL*Plus では、次のコマンド・キーに特殊機能が割り当てられています。

キー	機能
[Home]	画面バッファの一番上への移動
[End]	画面バッファの一番下への移動
[Page Up]	前の画面ページへの移動
[Page Down]	次の画面ページへの移動
[Ctrl]+[Page Up]	現在の画面ページの左のページを表示
[Ctrl]+[Page Down]	現在の画面ページの右のページを表示
[Alt]+[F3]	検索
[F3]	次を検索
[Ctrl]+[C]	SQL*Plus で実行中の操作の取消
[Ctrl]+[C]	テキストのコピー（SQL*Plus で操作が実行中でないとき）
[Ctrl]+[V]	テキストの貼付け
[Shift]+[Del]	画面と画面バッファのクリア

SQL*Plus メニューの使用方法

この項では、SQL*Plus の GUI のメニューを説明します。カッコ内は、「ファイル」メニューのコマンドのキーボード・ショートカットを示します。一番右の列は、対応するコマンドライン・インタフェースのコマンドがある場合、そのコマンドを示しています。

「ファイル」メニュー

「ファイル」メニューには、次のオプションがあります。

オプション	「ファイル」メニューのオプションの説明	コマンドライン
開く	「開く」オプションは、保存されているコマンド・ファイルを取り出します。 ファイル拡張子を指定しなければ、SQL*Plus によって拡張子 .SQL の付いたコマンド・ファイルが検索されます。コマンド・ファイルには、1 つの SQL 文または PL/SQL 文が含まれています。複数の文または SQL*Plus コマンドを含めることはできません。	GET <i>filename</i>

オプション	「ファイル」メニューのオプションの説明	コマンドライン
上書き保存	<p>「上書き保存」オプションには、「作成」、「置換」および「追加」の3つがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「作成」は、SQL*Plus バッファの内容をコマンド・ファイルに保存します。デフォルトでは、SQL*Plus はコマンド・ファイルに拡張子 .SQL を割り当てます。「ファイル名」テキスト・ボックスで別の拡張子を指定できます。 ■ 「置換」は、既存のファイルの内容を SQL*Plus バッファの内容に置き換えます。ファイルが存在しない場合は、SQL*Plus がファイルを作成します。 ■ 「追加」は、指定したファイルの終わりに SQL*Plus バッファの内容を追加します。 <p>コマンド・ファイルの保存後、次の操作を行うことができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「ファイル」メニューの「開く」オプションを使用したファイルの取出し ■ 「編集」メニューの「エディタ」オプションを使用したファイルの編集 ■ SQL*Plus コマンド・プロンプトからの、START または RUN コマンドによるファイルの実行 	<p>SAVE</p> <p>SAVE <i>filename</i> CREATE</p> <p>SAVE <i>filename</i> REPLACE</p> <p>SAVE <i>filename</i> APPEND</p>
別名保存	<p>「別名保存」オプションは、SQL*Plus バッファの内容をコマンド・ファイルに保存します。</p> <p>デフォルトでは、SQL*Plus はコマンド・ファイルに拡張子 .SQL を割り当てます。「ファイル名」テキスト・ボックスで別の拡張子を指定できます。</p>	SAVE <i>filename</i>
スプール	<p>「スプール」オプションには、「スプール・ファイル」と「スプール・オフ」の2つがあります。SQL*Plus for Windows では、SPOOL OUT 句はサポートされていません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「スプール・ファイル」は問合せ結果をファイルに保存します。デフォルトでは SQL*Plus はスプール・ファイルに拡張子 .LST を割り当てます。「ファイル名」テキスト・ボックスで別の拡張子を指定できます。結果は「編集」メニューの「エディタ」オプションを使用して編集でき、Windows のテキスト・エディタからファイルを印刷できます。 ■ 「スプール・オフ」は、スプーリングをオフにします。 	<p>SPOOL <i>filename</i></p> <p>SPOOL OFF</p>
実行	<p>「実行」オプションは、現在 SQL バッファに保存されている SQL コマンドまたは PL/SQL ブロックを表示し、実行します。</p>	RUN
取消 ([Ctrl]+[C])	<p>「取消」オプションは、実行中の操作を取り消します。</p> <p>「取消」キーボード・ショートカットは、SQL*Plus セッションで SQL*Plus 操作が実行中である場合にのみ利用できます。SQL*Plus 操作が実行中でなければ、[Ctrl]+[C] 操作によって選択されたテキストがコピーされます。</p>	[Ctrl]+[C]
終了	<p>「終了」オプションは、ペンディング中のデータベースの変更をすべてコミットし、SQL*Plus アプリケーション・ウィンドウを閉じます。</p>	EXIT

「編集」メニュー

「編集」メニューには、次のオプションがあります。

オプション	「編集」メニューのオプションの説明	コマンドライン
コピー ([Ctrl]+[C])	<p>「コピー」オプションは、選択されたテキストをクリップボードにコピーします。</p> <p>テキストをクリップボードにコピーした後、Microsoft Excel や Microsoft Word のような、別の Windows アプリケーションに貼り付けることができます。</p> <p>「コピー」キーボード・ショートカットは、SQL*Plus セッションで SQL*Plus 操作が実行中でない場合にのみ利用できます。SQL*Plus 操作が実行中であれば、[Ctrl]+[C] によって実行中の操作が取り消されます。</p>	該当なし
貼付け ([Ctrl]+[V])	<p>「貼付け」オプションは、クリップボードの内容を SQL*Plus コマンドラインに貼り付けます。</p> <p>注意： 1 回の貼付け操作でクリップボードから SQL*Plus コマンドラインに貼り付けることができる文字は最大で 3625 文字です。</p>	該当なし
クリア ([Shift]+[Del])	「クリア」オプションは、SQL*Plus アプリケーション・ウィンドウの画面バッファと画面をクリアします。	CLEAR SCREEN
エディタ	<p>「エディタ」オプションには、「エディタ起動」と「エディタ定義」の 2 つがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「エディタ起動」コマンドは、SQL*Plus バッファの内容をエディタにロードします。デフォルトでは、SQL*Plus はファイルを AFIEDT.BUF に保存します。エディタで別のファイル名を指定することもできます。 ■ 「エディタ定義」は、起動されるエディタを定義します。 	EDIT DEFINE _EDITOR = editor name

「検索」メニュー

「検索」メニューには、次のオプションがあります。

オプション	「検索」メニューのオプションの説明	コマンドライン
検索 ([Alt]+[F3])	<p>「検索」オプションは、SQL*Plus アプリケーション・ウィンドウ内で文字、単語、文字のグループ、単語のグループを検索します。検索は、表示された画面の一番上から開始されます。</p> <p>注意： 表示された画面の最後まで検索しても、画面バッファの一番上から検索を自動的に再開しません。</p>	該当なし
次検索 ([F3])	「次検索」オプションは、指定したテキストが次に存在する箇所を検索します。	該当なし

「オプション」メニュー

「オプション」メニューには、次のオプションがあります。

オプション	「オプション」メニューのオプションの説明	コマンドライン
環境	<p>「環境」オプションを使用すると、システム変数を設定して現在のセッションの SQL*Plus 環境を変更できます。このダイアログ・ボックスには、「オプション設定」、「値」および「画面バッファ」の 3 つの領域があります。</p> <p>注意： これらのコントロールが互いにどのように影響し合うかについての例は、3-11 ページの「「環境」ダイアログ・ボックスでのオプションと値の設定」を参照してください。</p> <p>オプション設定</p> <p>この領域には、現行のセッションの SQL*Plus 環境を設定するための、次のような変数のリストがあります。</p> <ul style="list-style-type: none">■ NUMBER データの表示幅の設定■ LONG データの表示幅の設定■ 列ヘッダーの出力の許可および禁止■ 1 ページ当たりの行数の設定 <p>SET コマンドのそれぞれのシステム変数の説明は、『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の「コマンド・リファレンス」の章を参照してください。</p>	SET variable value
値	<p>「値」領域には、「デフォルト」、「ユーザー定義」、「オン」および「オフ」の 4 つのオプションがあります。</p> <p>注意： 「ユーザー定義」が選択されているとき、「オン」、「オフ」の 2 つのボタンとテキスト・フィールドのそれぞれを、ユーザーが選択できる場合と選択できない場合があります。これらのフィールドを使用できるかどうかは、「オプション設定」領域でどの項目が選択されているかによって決まります。</p>	SET variable value

オプション	「オプション」メニューのオプションの説明	コマンドライン
	画面バッファ この領域には、「バッファ幅」および「バッファ長」の2つのテキスト・ボックスがあります。 <ul style="list-style-type: none"> 「バッファ幅」テキスト・ボックスでは、SQL*Plus が1行に表示する文字の数を設定します。出力データの長さより小さい数を入力すると、SQL*Plus は指定されたバッファ幅に一致するように、データの一部を切り捨てます。「バッファ幅」パラメータのデフォルト値は100文字です。1行には80～1000文字を指定できます。 「バッファ長」テキスト・ボックスでは、SQL*Plus が画面上で表示する行数を設定します。SQL*Plus で指定より多くのデータ行を表示する場合、データの残りの行は画面バッファの先頭に折り返されます。「バッファ長」パラメータのデフォルト値は1000行です。1つの画面上に100行～2000行まで指定できます。 <p>注意：「画面バッファ」オプションを変更すると、SQL*Plus はダイアログ・ボックスを表示し、画面バッファのサイズを小さくする場合は画面上に一部のデータが表示されなくなることを警告します。そのまま続ける場合は「OK」をクリックします。</p> <p>SET MARKUP を使用して HTML 表に出力を送信する場合は、バッファ長変数に指定した行数が、HTML 表の行数として指定されます。各 HTML 表の行には、複数のテキスト行が含まれる場合があります。</p>	SET variable value

「ヘルプ」メニュー

「ヘルプ」メニューには、次のオプションがあります。

オプション	「ヘルプ」メニューのオプションの説明	コマンドライン
SQL*Plus のバージョン情報	SQL*Plus のバージョン番号と著作権についての情報を表示します。 SQL*Plus ヘルプには、SQL*Plus プロンプトからアクセスします。2-4 ページの「 SQL*Plus ヘルプへのアクセス 」を参照してください。	該当なし

「環境」ダイアログ・ボックスでのオプションと値の設定

現行のセッションの環境 SQL 文を作成するために使用する「環境」ダイアログ・ボックスを表示するには、「オプション」メニューから「環境」を選択します。

まず、「オプション設定」リストから項目を選択します。デフォルトの設定を使用することも、あるいはダイアログ・ボックスのコントロールを使用して設定をカスタマイズすることもできます。使用可能なコントロールは、選択するオプションによって異なります。オプションと値に複数の変更を加えることができます。テキスト・ボックスが使用可能なときに

は、適切なテキストまたは数値を入力できます。「OK」をクリックして、設定をコミットします。

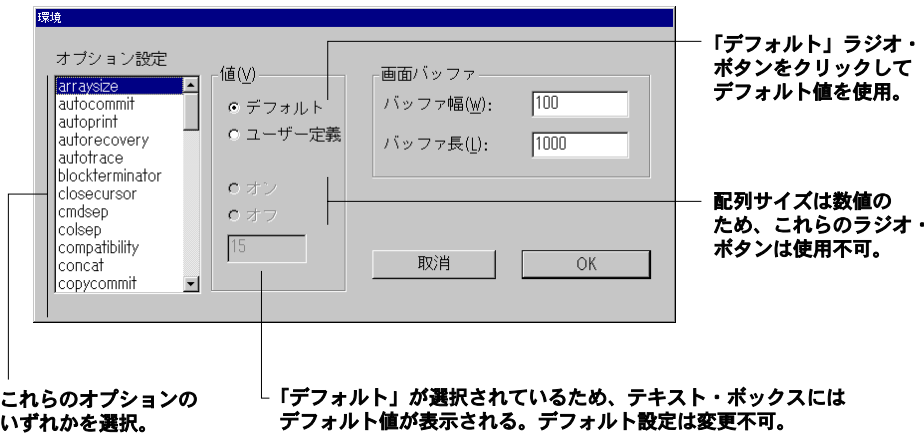
注意： SQL*Plus リリース 8.1 で導入されたオプションは、コマンドラインからのみアクセスでき、SQL*Plus for Windows の「環境」ダイアログ・ボックスでは使用できません。オプションは次のとおりです。

- SET APPINFO
- SET LOBOFFSET
- SET MARKUP
- SET SHIFTINOUT
- SET SQLBLANKLINES
- SET SQLPLUSCOMPATIBILITY {ON | OFF}

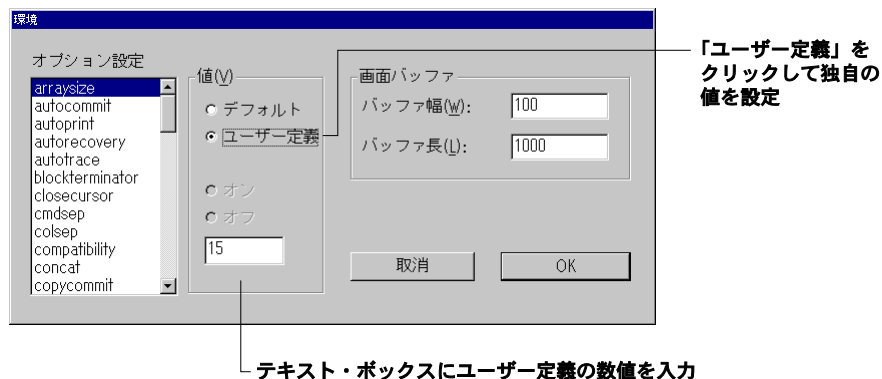
これらの SET コマンドの説明は、『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の「コマンド・リファレンス」を参照してください。

例 3-1

ARRAYSIZE はデフォルトの 15 に設定されています。

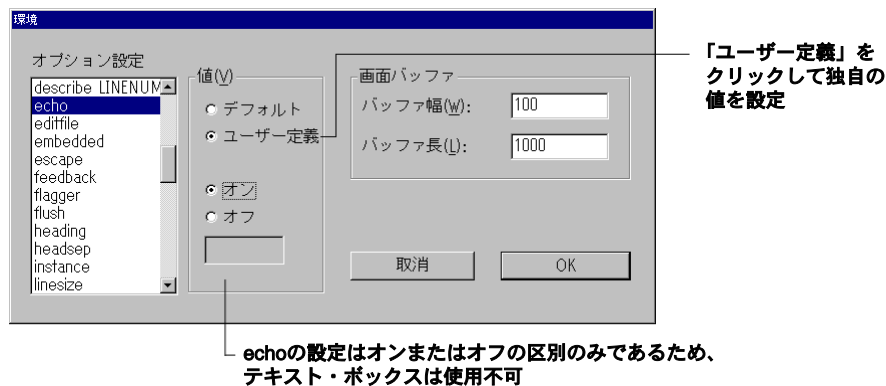


ARRAYSIZE を変更するには、「ユーザー定義」をクリックして、テキスト・ボックスに数値を入力します。



例 3-2

ECHO のデフォルトはオフです。設定を変更するには、「ユーザー定義」をクリックし、次に「オン」をクリックします。



SQL*Plus の終了

コマンドライン・インタフェースまたは GUI から SQL*Plus を終了するには、SQL*Plus プロンプトに EXIT または QUIT と入力します。

コマンドラインから SQLPLUSW と入力して起動した場合は、コマンドライン・インタフェースまたは GUI を終了したときに Windows のコマンド・プロンプトに戻ります。

「ファイル」メニューから「終了」をクリックして、GUI を終了します。GUI から SQL*Plus を終了すると、GUI が閉じて Windows に戻ります。

iSQL*Plus Extension for Windows

iSQL*Plus Extension for Windows には、iSQL*Plus でローカルの SQL スクリプトをロードまたは実行するためのコンテキスト・メニューが用意されています。iSQL*Plus Extension for Windows は SQL ファイルとともに機能し、Windows エクスプローラで .SQL ファイルを右クリックするとアクティブになります。

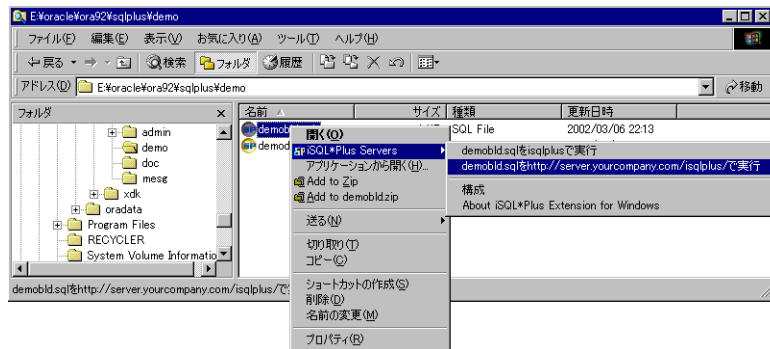
このユーティリティは、Windows 版 Oracle9i データベース、および Windows 版 Oracle9i クライアントのインストール時にインストールされます。インストール後は、1 つ以上の iSQL*Plus サーバーへのアクセスを構成できます。iSQL*Plus ユーザー・インタフェースの詳細は、『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。

コンテキスト・メニュー

iSQL*Plus サーバーの構成後、コンテキスト・メニューを使用して次のことを行えます。

- ワークステーションからアクセス可能なローカル・スクリプトの実行またはロード
- 構成済 iSQL*Plus サーバーのリストから、使用するサーバーの選択
- .SQL ファイルのダブルクリックと関連付けるファイルの選択
- 構成済言語のリストから、使用する言語の選択

次の図は、構成済 iSQL*Plus サーバーの一般的なコンテキスト・メニューを示しています。



選択されている iSQL*Plus サーバーは、iSQL*Plus をブラウザで起動し、`server.yourcompany.com` という名前の iSQL*Plus サーバーの入力領域に `demobld.sql` をロードするように構成されます。

iSQL*Plus Extension for Windows の構成

iSQL*Plus Extension for Windows にアクセスするには、Windows プラットフォームの拡張メニューを使用します。iSQL*Plus Extension for Windows の拡張メニューにアクセスするには、拡張子が .SQL のファイルを右クリックします。

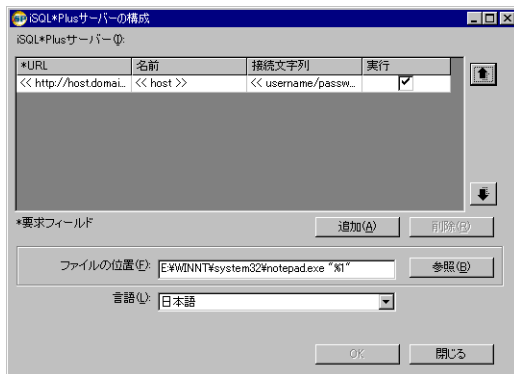
Oracle9i サーバーをインストールした場合は、Oracle HTTP Server の iSQL*Plus サーバー・エントリがデフォルトで作成されています。Oracle9i クライアントをインストールした場合は、iSQL*Plus サーバー・エントリは作成されません。「構成」ダイアログ・ボックスを使用して、使用可能な任意の iSQL*Plus サーバーを構成できます。

「構成」ダイアログ・ボックス

Windows エクスプローラで .SQL ファイルを右クリックして「構成」ダイアログ・ボックスを開き、「iSQL*Plus Servers」を選択してから、「構成」を選択します。「iSQL*Plus サーバーの構成」ダイアログ・ボックスが表示されます。

列に含まれるフィールドよりも列の幅が狭い場合、ツール・チップにフィールド内の全テキストが表示されますが、フィールドを編集またはコピーするには、フィールド全体を表示できる列の幅にする必要があります。列の幅を広くするには、ヘッダーの列セパレータを選択してドラッグします。

iSQL*Plus サーバーのリストをフィールド名の昇順または降順でソートするには、フィールド名の列ヘッダーをクリックします。また、サーバー定義を手動でソートするには、iSQL*Plus サーバーのリストの右側にある上矢印および下矢印ボタンを使用します。



URL 次の形式で有効な iSQL*Plus サーバーの URL を入力します。

`http://host.domain/isqlplus`

このフィールドは必須です。

名前 iSQL*Plus サーバーの名前を入力します。名前を入力した場合、その名前がコンテキスト・メニューに使用されます。入力しない場合は、iSQL*Plus サーバーの完全な URL が使用されます。

接続文字列 ユーザー名、パスワード、および接続先データベースを指定する接続文字列を入力します。ユーザー名とパスワードを省略した場合、iSQL*Plus の起動時に、それらの入力を求めるプロンプトが表示されます。データベース接続識別子または Oracle Net の別名を省略した場合は、デフォルトのデータベースに接続されます。

実行 選択したファイルに対して実行される処理を変更するには、「**実行**」チェックボックスの選択を解除します。デフォルトの処理は「実行」ですが、ロードの処理をすることもできます。「実行」チェックボックスを選択すると、選択したファイルが iSQL*Plus サーバーで実行され、結果がブラウザに表示されます。「実行」チェックボックスの選択を解除すると、iSQL*Plus サーバーが起動し、選択したファイルが入力領域にロードされます。

追加 新規の iSQL*Plus サーバーを追加するには、「**追加**」をクリックします。

削除 選択した iSQL*Plus サーバー定義を削除するには、「**削除**」をクリックします。

ファイルの位置： 拡張子 .SQL のファイルのダブルクリックと関連付けるアプリケーションのパスおよび引数を入力します。デフォルトのアプリケーションは、Windows のメモ帳です。この定義は、iSQL*Plus サーバー定義には影響を与えません。

参照 拡張子 .SQL のファイルのダブルクリックと関連付けるアプリケーションを検索するには、「参照」をクリックします。

言語： 「言語」ボックスで、iSQL*Plus Extension for Windows で使用する言語を次の中から選択します。

ポルトガル語（ブラジル）

英語

フランス語 / フランス語（カナダ）

ドイツ語

イタリア語

日本語

韓国語

簡体字中国語

スペイン語 / スペイン語（南米）

繁体字中国語

この言語設定は iSQL*Plus Extension for Windows にのみ適用され、iSQL*Plus には影響しません。

OK 変更を保存して「iSQL*Plus サーバーの構成」ダイアログ・ボックスを閉じるには、「OK」をクリックします。

取消 変更を取り消して「iSQL*Plus サーバーの構成」ダイアログ・ボックスを閉じるには、「取消」をクリックします。変更内容が取り消される前に、もう一度プロンプトが表示されます。

「iSQL*Plus サーバーの構成」ダイアログ・ボックスを最初に開いたときには、「OK」ボタンは使用不可能で、「取消」ボタンには「閉じる」というラベルが付いています。変更を行った後は「OK」ボタンが使用可能になり、「閉じる」は「取消」という名前に変わります。

サーバーの追加

iSQL*Plus Extension for Windows を使用する前に、少なくとも 1 つの iSQL*Plus サーバーを構成しておく必要があります。iSQL*Plus サーバーを追加するには、次のようにします。

1. Windows エクスプローラで .SQL ファイルを右クリックします。
2. 「**iSQL*Plus Servers**」を選択して、コンテキスト・メニュー・オプションを表示します。最初は次のオプションがあります。
 - iSQL*Plus サーバーが構成されていません
Oracle9i サーバーをインストールした場合は、標準 URL 用と DBA URL 用に 2 つの iSQL*Plus サーバーが構成されています。
 - 構成
 - About iSQL*Plus Extension for Windows
3. 「**構成**」をクリックします。「iSQL*Plus サーバーの構成」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 「iSQL*Plus サーバー:」領域に iSQL*Plus サーバー定義を入力します。最初にダイアログ・ボックスを開くと、入力するフィールドの内容を示す次の構文モデルが表示されます。

URL: << http://host.domain/isqlplus >>

名前: << host >>

接続文字列: << username/password@connect_identifier >>

iSQL*Plus サーバーの URL の入力は必須です。その他のフィールドはオプションです。iSQL*Plus サーバーが Oracle9i サーバーのインストール時に構成されていると、異なる場合もあります。

5. 「OK」をクリックして、新しいサーバー定義を保存します。

新しい iSQL*Plus サーバーの名前がコンテキスト・メニューに表示されます。コンテキスト・メニューからサーバーを選択すると、iSQL*Plus サーバーの完全な URL がステータス・バーに表示されます。

サーバーの変更

iSQL*Plus サーバーを変更するには、次のようにします。

1. Windows エクスプローラで .SQL ファイルを右クリックします。
2. 「**iSQL*Plus Servers**」を選択して、コンテキスト・メニュー・オプションを表示します。
3. 「**構成**」をクリックします。「iSQL*Plus サーバーの構成」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 使用可能なサーバーのリストから、変更するサーバーを選択します。

5. テキスト・フィールドでサーバー定義を直接編集し、各フィールドの編集を終了後、[Enter] を押します。列に含まれるフィールドよりも列の幅が狭い場合、フィールドを編集またはコピーするには、ヘッダーの列セパレータを選択してドラッグし、列の幅を広くする必要があります。
6. 「OK」をクリックして、変更を保存します。

変更した iSQL*Plus サーバー名がコンテキスト・メニューに表示されます。

サーバーの削除

使用可能なサーバーのリストから、削除するサーバーを選択します。テキスト・ボックスに、サーバーの詳細が表示されます。「削除」ボタンをクリックして、使用可能なサーバーのリストからそのサーバーを削除します。

iSQL*Plus サーバーを削除するには、次のようにします。

1. Windows エクスプローラで .SQL ファイルを右クリックします。
2. 「iSQL*Plus Servers」を選択して、コンテキスト・メニュー・オプションを表示します。
3. 「構成」をクリックします。「iSQL*Plus サーバーの構成」ダイアログ・ボックスが表示されます。
4. 使用可能なサーバーのリストから、削除するサーバーを選択します。
5. 「削除」をクリックします。
6. 「OK」をクリックして、変更を保存します。

iSQL*Plus サーバーがコンテキスト・メニューから削除されます。

オペレーティング・システム固有のリファレンス

この章では、オペレーティング・システム固有の情報について説明します。

この章の項目は次のとおりです。

- [自動ログオン](#)
- [TIMING コマンド](#)
- [エラー・メッセージの解釈](#)
- [SQL*Plus 環境の設定](#)
- [ファイルへの結果の格納](#)
- [@、@@ および START コマンド](#)
- [HOST コマンド](#)
- [SET NEWPAGE コマンド](#)
- [PRODUCT_USER_PROFILE 表](#)

自動ログオン

同じ Windows コンピュータ上の Oracle データベースに接続する場合は、自動ログオンを実行できるように SQL*Plus を設定できます。設定するには、次の手順を実行します。

1. データベースにアクセスする必要がある Windows ユーザー（USERX）ごとに、データベース・アカウント <PREFIX>USERX を作成します。<PREFIX> は、データベースの初期化パラメータ・ファイルにあるパラメータ OS_AUTHENT_PREFIX（デフォルトは OPS\$）です。OS_AUTHENT_PREFIX 初期化パラメータの詳細は、『Oracle9i データベース・リファレンス』および『Oracle Advanced Security 管理者ガイド』を参照してください。
2. Windows に USERX でログオンした後は、*username/password* のかわりに、/（スラッシュ）を使用して SQL*Plus にログオンできます。

この方法の詳細は、『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の第 4 章の「SQL*Plus を起動するためのショートカット」を参照してください。オペレーティング・システムにログオンする際の SQL*Plus への自動ログオンについては、第 4 章でこのマニュアルが参照されています。

TIMING コマンド

SQL*Plus TIMING コマンドは、出力を時、分、秒および 1/100 秒単位で表示します。たとえば、02:31:07.55 は、2 時間 31 分 7.55 秒です。

『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の第 9 章「SQL*Plus のチューニング」の「実行したコマンドのタイミング統計の収集」と、第 13 章「コマンド・リファレンス」の「SET」および「TIMING」を参照してください。TIMING コマンドおよび SET TIMING コマンドを使用して経過時間のタイミング・データを記録する方法が説明されています。

エラー・メッセージの解釈

エラー・メッセージの解釈の詳細は、『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の第 5 章の「エラー・メッセージの解釈」を参照してください。接頭辞が SP2- および CPY- のエラー・コードの説明と処置を調べるには、『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』を参照してください。接頭辞が ORA-、TNS- および PLS- のエラー・コードの説明と処置を調べるには、『Oracle9i データベース・エラー・メッセージ』を参照してください。

『Oracle9i データベース・エラー・メッセージ』でエラー・コードを見つけられない場合は、『Oracle9i Database for Windows 管理者ガイド』を参照してください。

SQL*Plus 環境の設定

SQL*Plus をインストールすると、LOGIN.SQL は Oracle ホーム・ディレクトリの DBS サブディレクトリにコピーされ、GLOGIN.SQL は Oracle ホーム・ディレクトリの SQLPLUS\ADMIN サブディレクトリにコピーされます。

LOGIN.SQL または GLOGIN.SQL を変更する場合、ANSI エスケープ・シーケンスを追加しないようにしてください。

『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の第 3 章の「SQL*Plus の構成」を参照してください。LOGIN.SQL ファイルと GLOGIN.SQL ファイルの説明があります。

ファイルへの結果の格納

SPOOL コマンドを GUI またはコマンドライン・インタフェースで使用する時、拡張子を指定していないと SQL*Plus によってファイル名に .LST が追加されます。

SPOOL コマンドは、SQL*Plus の GUI の「**ファイル**」メニューから使用可能です。詳細は、3-7 ページの「**「ファイル」メニュー**」を参照してください。

SQL*Plus は、コマンドラインでの SPOOL OUT 句の使用をサポートしていません。

SPOOL コマンドの詳細は、『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の第 7 章の「ファイルへの結果の格納」、および第 13 章の「SPOOL」を参照してください。

@、@@ および START コマンド

SQL*Plus では、@ コマンド、@@ コマンドまたは START コマンドで指定したファイル名は現在のデフォルト・ディレクトリで検索されます。SQL*Plus でこのファイルを見つけられない場合、パスを検索して、ファイルを見つけます。

SQL*Plus が検索するパスの指定は、レジストリの SQLPATH パラメータを変更することで行えます。SQLPATH パラメータの詳細は、A-2 ページの「**SQLPATH レジストリ・エントリ**」を参照してください。

『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の第 13 章の「@ (アットマーク)」、「@@ (二重アットマーク)」および「START」を参照してください。@ コマンド、@@ コマンドまたは START コマンドを使用したときに SQL*Plus がファイルを検索する方法が説明されています。

HOST コマンド

SQL*Plus のコマンドライン・ユーザー・インタフェースおよび GUI では、HOST コマンドまたはドル記号 (\$) を SQL*Plus プロンプトに入力することで、Windows コマンド・プロンプトにアクセスできます。

Windows コマンド・プロンプトから SQL*Plus に戻るには、EXIT と入力します。

『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の第 13 章の「HOST」を参照してください。HOST コマンドを使用して、SQL*Plus を終了せずにホスト・オペレーティング・システム・コマンドを実行する方法が説明されています。

SET NEWPAGE コマンド

SET NEWPAGE 0 コマンドはページ間で画面をクリアしません。かわりに、GUI では黒いボックスが表示され、コマンドライン・インタフェースでは別の文字が表示されます。

『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の第 13 章の「SET」を参照してください。NEWPAGE システム変数およびその他の多くのシステム変数を設定する方法が説明されています。SET NEWPAGE NONE を使用することをお勧めします。

PRODUCT_USER_PROFILE 表

PRODUCT_USER_PROFILE (PUP) 表によって、SQL GRANT コマンド、REVOKE コマンドおよびユーザー・ロールによって指定されるユーザーレベルのセキュリティを補う、製品レベルのセキュリティが提供されます。

PUP 表の作成方法

SYSTEM ユーザーで SQL*Plus にログオンし、
%ORACLE_HOME%\SQLPLUS\ADMIN ディレクトリにある PUPBLD.SQL を実行します。

```
SQL> @%ORACLE_HOME%\SQLPLUS\ADMIN\PUPBLD.SQL
```

または

1. SYSTEM ユーザーのログオン情報を保持するための環境変数 SYSTEM_PASS を設定します。

```
C:\> SET SYSTEM_PASS=SYSTEM/PASSWORD
```

PASSWORD は SYSTEM ユーザー用に定義したパスワードです。SYSTEM ユーザーのデフォルトのパスワードは MANAGER です。

PUPBLD.BAT によってこのログオン情報が SYSTEM_PASS から読み込まれ、正常に実行されます。

2. コマンドライン・プロンプトからバッチ・ファイル PUPBLD.BAT を実行します。

```
C:¥> %ORACLE_HOME%\¥BIN¥PUPBLD.BAT
```

SQL*Plus でリモート・データベースを操作する場合、PUP 表をリモート・データベース上にインストールできます。これを行うには、サーバーで PUPBLD.SQL を直接実行するか、レジストリの LOCAL パラメータがリモート・データベースを指すよう設定し、PUPBLD.SQL を実行します。

PUP 表の説明は、『SQL*Plus ユーザーズ・ガイドおよびリファレンス』の第 10 章「セキュリティ」の「PRODUCT_USER_PROFILE 表」を参照してください。

PUP 表は、ODBC 接続には使用されません。ODBC 接続かどうかは、通常、接続識別子の形式から確認できます。ODBC 接続の接続識別子は、odbc: または oca: から始まります。

オペレーティング・システム・パラメータの カスタマイズ

この章では、Windows レジストリ・エントリの設定および SQLPATH 環境変数の変更によって、SQL*Plus 構成をカスタマイズする方法を説明します。

この章の項目は次のとおりです。

- [レジストリ](#) の使用方法
- [SQLPATH レジストリ・エントリ](#)
- [iSQL*Plus Extension for Windows](#) のレジストリ・エントリ
- [SQLPLUS 環境変数](#)

警告： Microsoft 社は、レジストリの変更を推奨していません。レジストリを編集すると、インストールされているオペレーティング・システムとソフトウェアに影響する可能性があります。経験豊富なユーザーのみがレジストリを編集するようにしてください。オラクル社は、Windows レジストリの編集によって発生した問題に責任を負いません。

レジストリの使用方法

Windows 用の Oracle 製品をインストールすると、Oracle Universal Installer によって、関連するパラメータが Windows レジストリに追加されます。

次の表は、Windows の各プラットフォームで使用できるレジストリ エディタのバージョン (REGEDT32.EXE または REGEDIT.EXE) を示したものです。

Windows プラットフォーム	REGEDT32.EXE	REGEDIT.EXE
Windows XP Professional	○	○
Windows 2000	○	○
Windows NT 4.0	○	○
Windows 98	×	○

Oracle パラメータは、HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE サブキーに含まれています。

Oracle パラメータを定義するレジストリ・エントリの編集方法は、レジストリ エディタのヘルプを参照してください。

Oracle 関連のレジストリ・エントリの値を変更したり、レジストリ・エントリを追加した場合、そのレジストリ・エントリを使用するプロシージャが SQL*Plus で実行されるときに、変更内容が有効になります。

SQLPATH レジストリ・エントリ

SQLPATH レジストリ・エントリには、SQL スクリプトの場所を指定します。SQL*Plus は現在のディレクトリで SQL スクリプトを検索し、次に SQLPATH レジストリ・エントリで指定されたディレクトリを検索します。

SQLPATH レジストリ・エントリは、HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥ORACLE¥HOME0 レジストリ・サブキーにあります。SQLPATH は、¥ORACLE¥ORA90¥DBS のデフォルト値で作成されます。任意のドライブの任意のディレクトリを SQLPATH の有効値として指定できます。

SQLPATH レジストリ・エントリを設定するときは、セミコロン (;) でディレクトリを連結できます。次に例を示します。

C:¥ORACLE¥ORA90¥DATABASE;C:¥ORACLE¥ORA90¥DBS

SQLPATH レジストリ・エントリの編集方法は、レジストリ エディタのヘルプを参照してください。

iSQL*Plus Extension for Windows のレジストリ・エントリ

iSQL*Plus Extension for Windows のインストール、および関連するレジストリ・エントリの作成は、Oracle9i のインストールの一部として行われます。Oracle9i サーバーをインストールした場合は、次のレジストリ・エントリが作成されます。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ORACLE\iSQLPlus
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ORACLE\iSQLPlus\Servers
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ORACLE\iSQLPlus\Servers\Server00
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ORACLE\iSQLPlus\Servers\Server01
```

Oracle9i クライアントをインストールした場合は、次のレジストリ・エントリのみが作成されます。

```
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ORACLE\iSQLPlus
```

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ORACLE\iSQLPlus には、構成済の iSQL*Plus サーバーの数をカウントする ServerCount 変数が含まれています。iSQL*Plus サーバーを新たに構成するたびに、そのサーバーを表すレジストリ・エントリが作成され、ServerCount 変数が 1 ずつ増分されます。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ORACLE\iSQLPlus\Servers は、Oracle9i サーバーのインストールで構成された 2 つの iSQL*Plus サーバーのコンテナであるか、あるいは Oracle9i クライアントのインストールで iSQL*Plus サーバーを構成したときに作成されたものです。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ORACLE\iSQLPlus\Servers\Server00 は、Oracle9i サーバーのインストール時に構成された最初の iSQL*Plus サーバーです。これには、次の形式の URL が使用されます。

```
http://machine_name.domain:port/isqlplus
```

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\ORACLE\iSQLPlus\Servers\Server01 は、Oracle9i サーバーのインストール時に構成された 2 番目の iSQL*Plus サーバーです。これには、次の形式の DBA ユーザー URL が使用されます。

```
http://machine_name.domain:port/isqlplusdba
```

SQLPLUS 環境変数

SQLPLUS 環境変数では、SQL*Plus のメッセージ・ファイルの場所が指定されます。この環境変数はインストール時に設定され、デフォルト値は次のとおりです。

```
%ORACLE_HOME%\SQLPLUS\MESG
```

この環境変数の変更や設定は行わないでください。

記号

\$ コマンド, 4-4
@@ コマンド, 4-3
@ コマンド, 4-3

A

AFIEDT.BUF
「エディタ」を参照
ANSI エスケープ・シーケンス, 警告, 4-3

C

C:¥ORANT, 定義, x
C:¥ORAWIN98, 定義, x
CD-ROM の内容, v, 2-2
CPY エラー・メッセージ, 4-2

E

Extension for Windows, iSQL*Plus, 3-14

G

GLOGIN.SQL ファイル, 4-3
Graphical User Interface
「GUI」を参照
GUI
メニュー, 3-7

H

HOST コマンド, 4-4

I

iSQL*Plus
Extension for Windows, 3-14
Extension for Windows, ファイル関連付けの設定,
3-17
Extension for Windows で使用する言語の設定,
3-17
Extension for Windows の構成, 3-15
Extension for Windows のレジストリ・エントリ,
A-3
iSQL*Plus のレジストリ・エントリ, A-3
サーバー URL の定義, 3-16
サーバー定義の削除, 3-19
サーバー定義の変更, 3-18
サーバーの削除, 3-16
サーバーの接続文字列の定義, 3-16
サーバーの追加, 3-16, 3-18
サーバーのレジストリ・エントリ, A-3
サーバー名の定義, 3-16
サーバー・モードの定義, ロードまたは実行, 3-16
iSQL*Plus Extension for Windows の構成, 3-15
iSQL*Plus Extension for Windows のサーバー定義の変
更, 3-18
iSQL*Plus Extension for Windows へのサーバーの追
加, 3-16, 3-18

L

LOCAL パラメータ, 4-5
LOGIN.SQL ファイル, 4-3

M

MS-DOS, SQL*Plus からのアクセス, 4-4

N

net_service_name
「接続識別子」を参照

O

ORACLE_BASE
説明, x
ORACLE ホーム
説明, x
ORA エラー・メッセージ, 4-2

P

PL/SQL, SQL*Plus に対する関係, 1-2
PLS エラー・メッセージ, 4-2
PRODUCT_USER_PROFILE 表, 4-4
PUPBLD.SQL ファイル, 4-4

R

REGEDIT.EXE, A-2
REGEDT32.EXE, A-2

S

SET
「Windows GUI」も参照
システム変数の設定, 3-10
SET NEWPAGE コマンド, 4-4
SET TIMING コマンド, 4-2
SP2 エラー・メッセージ, 4-2
SPOOL OUT 句, サポートされていない, 4-3
SPOOL コマンド, 4-3
SQL*Plus
GUI からの環境設定, 3-10
LOGIN と GLOGIN を使用した設定, 4-3
アプリケーション・ウィンドウ, 3-5
インストール, 2-2
オンライン・ヘルプのインストール, 2-2
環境の設定, 4-3
起動, 3-2
起動のショートカット, 4-2
基本概念, 1-3
コマンドの定義, 1-3
コマンドライン・インタフェース, 3-2

サポートされている Windows のバージョン, iii
終了, 3-14
メニュー, 3-7

SQL*Plus オンライン・ヘルプのインストール, 2-2
SQLPATH レジストリ・エントリ, 4-3, A-2
SQLPLUS 環境変数, A-3
SQL バッファ, 3-8
START コマンド, 4-3

T

TIMING コマンド, 4-2
TNS エラー・メッセージ, 4-2

U

URL
iSQL*Plus Extension for Windows, 3-16

W

Windows
Extension, iSQL*Plus, 3-14
サポートされているバージョン, iii, iv
ファイル関連付けの設定, 3-17

Windows GUI
SQL*Plus の起動, 3-5
アプリケーション・ウィンドウ, 3-5
コマンド・キー, 3-7
システム変数の設定, 3-10
終了, 3-8
取消, 3-8
「ファイル」メニュー, 3-7
メニュー, 3-7
「ログオン」ダイアログ・ボックス, 3-5

Windows オペレーティング・システム
サポートされているバージョン, iv

あ

アクセス, サンプル表, 2-4
「値」画面領域, 3-10
「値」領域, 3-10

え

エディタ

起動, 3-9

定義, 3-9

レジストリ・エントリ, A-2

エラー・メッセージ, 解釈, 4-2

お

「オプション設定」領域, 3-10

「オプション」メニュー, 3-10

オペレーティング・システム, SQL*Plus のサポート,
iii

オンライン・ヘルプ

SQL*Plus での参照, 1-3, 2-2

インストール, 2-2

インストールの前提条件, 2-2

オンライン・ヘルプへのアクセス, 2-4

か

概要, 1-2

「画面バッファ」領域, 3-11

環境

SQL*Plus の設定, 3-10, 4-3

SQLPLUS 変数, A-3

コマンド, 3-10

き

規則, Windows 引数, 3-3

起動

SQL*Plus, 3-2

SQL*Plus Windows GUI, 3-5

基本概念, 1-3

く

クリア, 画面, 3-9

け

言語

iSQL*Plus Extension for Windows 用の設定, 3-17

検索, テキスト, 3-9

「検索」メニュー, 3-9

こ

コピー, テキスト, 3-6, 3-9

コマンド

HOST, 4-4

SET NEWPAGE, 4-4

SET TIMING, 4-2

Windows 引数, 3-3

検索, テキスト, 3-9

コピー, テキスト, 3-6

定義, 1-3

貼付け, テキスト, 3-9

コマンド・キー, SQL*Plus Windows GUI, 3-7

コマンド・ファイル

開く, 3-7

保存, 3-8

コマンドライン・インタフェース, 3-2

Windows の「文字コード表」ユーティリティ, 3-4

特殊文字, 3-4

フォントとフォント・サイズの変更, 3-3

ユーロ記号, 3-4

コンテキスト・メニュー

iSQL*Plus Extension for Windows, 3-14

さ

サーバー

iSQL*Plus Extension for Windows からの削除, 3-16

iSQL*Plus サーバー定義の削除, 3-19

iSQL*Plus サーバー定義の変更, 3-18

iSQL*Plus の URL の定義, 3-16

iSQL*Plus の接続文字列の定義, 3-16

iSQL*Plus の名前の定義, 3-16

iSQL*Plus への追加, 3-16, 3-18

iSQL*Plus モードの定義, ロードまたは実行, 3-16

削除

iSQL*Plus Extension for Windows からのサーバー
の削除, 3-16

iSQL*Plus Extension for Windows のサーバー, 3-19

サブキー, レジストリ, A-2

サンプル表, 2-4

し

システム変数

「値」領域, 3-10

「オプション設定」領域, 3-10

画面バッファ, 3-11

設定, 3-10

システム要件, 2-2

実行

iSQL*Plus Extension for Windows, 3-16

「実行」メニューのコマンド, 3-8

自動ログオン, 4-2

終了

SQL*Plus, 3-14

SQL*Plus GUI, 3-8

ショートカット, SQL*Plus 起動, 4-2

す

スクリプト

「コマンド・ファイル」を参照

「スタート」メニュー

SQL*Plus の起動, 3-5

スプール・ファイル, 4-3

「スプール」メニューのコマンド, 3-8

せ

セキュリティ

PRODUCT_USER_PROFILE 表, 4-4

接続識別子, 3-5

接続文字列

iSQL*Plus Extension for Windows, 3-16

「接続識別子」も参照

設定, LOGIN と GLOGIN の使用方法, 4-3

前提条件, オンライン・ヘルプのインストール, 2-2

て

テキスト・エディタ

起動, 3-9

定義, 3-9

デモ表, 2-4

と

問合せ

結果の定義, 1-3

定義, 1-3

特殊文字

使用, 3-4

フォントの選択, 3-4

ユーロ記号, 3-4

取消, 実行中の操作, 3-8

な

名前, iSQL*Plus Extension for Windows, 3-16

は

バッファ

SQL, 1-3, 3-8

画面, 1-3

画面領域, 3-11

クリア, 画面, 3-9

パラメータ

SQLPATH, 4-3, A-2

貼付け, テキスト, 3-9

ひ

表

定義, 1-3

デモ, 2-4

ふ

ファイル関連付け

Windows 用の設定, 3-17

ファイルへの結果の格納, 4-3

「ファイル」メニュー, 3-7

フォント

Windows の「文字コード表」ユーティリティ, 3-4

コマンドラインでの特殊文字, 3-4

コマンドラインでのユーロ記号, 3-4

コマンドラインのフォントとフォント・サイズの変更, 3-3

ブロックの定義, 1-3

へ

ヘルプ

- インストール, 2-2
- インストールの前提条件, 2-2
- オンライン・ヘルプへのアクセス, 2-4
- メニュー, 3-11
- 「編集」メニュー, 3-9

ほ

- ホスト文字列, 3-5
- 保存, コマンド・ファイル, 3-8

ま

- マウスによるコマンドのコピー, 3-6

め

- メニュー, Windows GUI, 3-7

も

- 「文字コード表」Windows ユーティリティ
フォントの選択, 3-4

ゆ

- ユーロ記号
コマンドライン・インタフェース, 3-4

れ

- レジストリ
 - iSQL*Plus Extension for Windows のエントリ, A-3
 - iSQL*Plus サーバーのエントリ, A-3
 - iSQL*Plus のエントリ, A-3
 - REGEDIT.EXE, A-2
 - REGEDT32.EXE, A-2
 - SQLPATH エントリ, 4-3, A-2
 - エディタ, A-2
- レポートの定義, 1-3

ろ

ロード

- iSQL*Plus Extension for Windows, 3-16
- ログオン, 自動, 4-2
- 「ログオン」ダイアログ・ボックス, 3-5

